

◎2013年JAPE夏期幼年教育研修会◎

「横浜」「福岡」の2会場で開催されました

◎横浜会場

「新横浜国際ホテル」にて7月25日～26日の両日、全国から多数の参加をいただき開催されました。



受付風景／横浜会場



特別講演の加藤繁美先生（山梨大学大学院教授）

第1日 全体会

1日目は全体会で、山梨大学大学院教育学研究科教授 加藤繁美先生による特別講演、当会理事長による基調講演に続き、実際保育の映像によるピアジェ理論による年齢別保育実践発表となりました。

2日目は朝9時から教員研修は午前に3分科会、午後に3分科会の開催、並行開催の設置者・園長・後継者研修は4講座と充実した研修となりました。

特別講演の加藤先生には「子どもと歩けばおもしろい」－対話と共感の保育実践－のテーマでお話いただきました。

子どもの声にちょっと耳をかたむけるだけで、子どもたちがどういう世界をおもしろがっているかわかる、1歳児からの各年齢の子どもたちの発した話を例に、自分の想いを伝えたいと、少ない語彙でおしゃべりする子どもたちの言葉の世界を教育学でとらえ、ユーモアたっぷりにお話しいただきました。90分では足りずもう少し聞きしたい思いでした。

特別講演に続いての基調講演は、今回の夏期研修会で、はじめて玉木弁立当会新理事長に「ピアジェ教育を現場に」－発達心理学を幼稚園・保育園の現場で役立てるために－のテーマで講演いただきました。続いての、実践保育発表は3歳児（誠心相陽幼稚園／神奈川）、4歳児（みつや・めぐみ幼稚園／大阪）、5歳児（北部幼稚園／千葉）から保育実践映像を見ながらの発表をしていただきました。

研修終了後の夕食会はプロのサックス演奏と有志の歌唱・玉木新理事長のピアノ、事務局有志のマジックと賑やかな懇親会となりました。

実践中心の6分科会で楽しく学んだ 教員研修（教員免許状更新講習併設）

2013年7月25日～26日 ◎新横浜国際ホテル

2日目の教員研修では、教員免許状更新講習2講座を含む、6つの分科会が催されました。

教材の活用方法については、小林まき子先生(当会研究部講師)に「めざましあそび」の具体的な指導方法についてご紹介いただき、日本平幼稚園（静岡市）の先生に実践発表をしていただきました。中村真理子先生（四国大学短期大学部講師、当会研究部講師）による「ファーストシリーズ」の講座では、久里浜幼稚園（神奈川県横須賀市）の先生に保育の様子を発表いただきました。

午後からの「スタートシリーズ」の講座では小林先生より、3歳児の特性に応じた保育のポイントをお話しいただくとともに、丸山幼稚園（東京都小平市）の先生に発表いただきました。



「子どもの知性と感性を育てるめざましあそび」の小林先生



「問題解決能力を育てる、はじめてのかず・ことば・かんざつ」の中村真理子当会講師と実践発表の久里浜幼稚園の先生方

教員免許状更新講習（選択領域）は午前、午後3時間ずつ、2つの講座が設けられました。

■ 午前の講座では春季研修会に続き、佐藤厚先生（上田女子短期大学准教授・劇団ひまわり俳優養成所講師）から「創って楽しむ劇あそび」をテーマに研修いただきました。昔話や童話を題材に、受講者は自由に発想をふくらませながら表現活動を楽しむとともに、保育者として指導する際のポイントを学びました。



保育に活かす「創って楽しむ劇あそび」の佐藤厚先生

■ 午後は鈴木光男先生（東京未来大学教授）より、教育者として兼ね備えたい資質について講義いただきました。

鈴木先生は教師には3つのC、すなわち「Child's Mind（子ども心を持ち続けること）」、「Create（創造力）」、「Communication（通じ合う力）」が大切だと指摘。幼児期の教育について、子どもの能力（ability）を高めることに傾きがちな教育から、基本的な感覚や行動の基本、人格の器といった容量（capacity）を広げる教育に力をいれるべきと述べられました。



「先生力を高める〇〇〇」鈴木光男先生



「絵本で発見！ 子育てのヒント」の大久保徳久子先生

■ 午後からのもう一つの教員研修では、大久保徳久子先生（生涯学習開発財団認定コーチ・JPIC読書アドバイザー）から、「絵本で発見！子育てのヒント」と題して研修いただきました。実際に絵本の読み聞かせをしていただき、絵本がもつ「生きるヒント」の読み解き方や、絵本が子どもを育てる力についてお話しいただきました。

教員研修の6つの分科会では、それぞれの講座で講師の先生の理論的なお話しと、受講者自身が体を動かして実践する活動がバランスよく盛り込まれており、長時間の研修にもかかわらず、皆熱心に、集中して取り組まれている受講者の姿が印象的でした。

設置者
園長
後継者研修
報告

幼稚園教育運営の最新動向を網羅した研修 設置者・園長・後継者研修

2013年7月25日～26日 ©新横浜国際ホテル

2日目の設置者・園長・後継者研修は、園運営、マナー、親学、行政情報の4講座で実施されました。

第1講座は、「園内のチームワークについて考える」のテーマで当会理事で教育顧問の高橋晃先生（武蔵野大学教授）にチームワーク・リーダーシップの社会心理学的な見地から、コーチングのプロ、孫ちゃんす先生には、実際の現場ではどんなことがおこっているか、を例に挙げ、チームワークをどのように作るのか、それに向けてどのようなリーダーシップを発揮するのかお話しいただきました。

高橋先生によればチームワークの良い職場は、インシデント報告が少なく、風通しがよいので離職率が小さいそうです。

改めて、園のチームワークについて考える良い機会になったようです。



「園内のチームワークについて考える」の
高橋晃先生・孫ちゃんす先生



「園長のための今更聞けないビジネスマナー講座」の藤村純子先生

第2講座は、「今更聞けないビジネスマナー」のテーマで文字通り、園長の立場で今更聞きにくいビジネスマナーとしての、挨拶、印象アップ術、名刺交換、等、楽しく実践いただきました。

第3講座は、春季研修会、夏期研修会での恒例講座となりました行政情報は「幼児教育の現状」と題し相原康人文部科学省幼児教育課専門官から、子ども子育て支援制度の現状について、丁寧にご説明いただきました。



「幼児教育の現状」相原康人文部科学省幼児教育課専門官

研修会の締めくくりの

第4講座は、明星大学教育学部教育学科教授で一般財団法人 親学推進協会理事長の高橋史朗先生に「教育再生の今日的課題」のテーマで「親学」を中心にお話しいただきました。

高橋史朗先生は、安倍晋三総理大臣、文部科学大臣をはじめ超党派で、家庭教育支援法の制定のため

設立された「親学推進議員連盟」のメンバーとして参加されております。

親学の目的は「親になるために学ぶ」「親としての学び」とかたられ、子どもの教育については第一義的には親にあるの立場で、最近見られる珍名奇名と思われる具体例等をしめし、あるべき教育について熱く語られました。

◎福岡会場

8月5日(月)、福岡市天神の都久志会館にて開催されました。

福岡会場
教員研修
報告

実践中心で楽しく学んだ「教員研修」

絵画表現・教材活用・幼児の英語教育・自分発見

2013年8月5日 ◎都久志会館（福岡市天神）

8月5日(月)、福岡市天神の都久志会館にて「JAPE夏期幼年教育研修会福岡会場」が開催されました。

オープニングでは当会理事の大里恭正先生（福岡県・みどりがおか幼稚園園長）と押野典生先生（鹿児島県・せんだい幼稚園園長）が音楽に合わせて大里先生自作のマリオネットを操り、会場を盛り上げました。

基調講演は玉木弁立先生（当会理事長、神奈川県・久里浜幼稚園園長）より、「ピアジェ教育を現場に」と題してお話いただきました。この中で玉木先生は、「ピアジェ理論にもとづく教材はそれ自身で完結するものではなく、理論を活かすきっかけに過ぎません。教材のねらいを先生が理解することで、例えば園庭でのあそびにもピアジェ教育を広げていくことができるのです」と述べられました。

続いて福岡市のみどりがおか幼稚園、上野享佳先生から「発表するよろこびを育む教育」をテーマに、年長児の紙ロボットづくりの保育について発表いただきました。

昼食休憩をはさみ、午後からは園長研修と教員研修に分かれての分科会となりました。

教員研修では、造形の実践研修として吉川暢子先生（筑紫女学園大学短期大学部講師）より、上手・下手にとらわれない表現活動を、特にものづくりを中心に研修いただきました。保育者の資質向上を目的とした研修では、孫ちゃんす先生（（財）生涯学習開発財団プロフェッショナルコーチ、（株）リアル代表）から、目の前の相手とより良い関係を築いていくための方法についてお話をいただきました。



大里恭正理事の音楽あそびで開会

また、教材「めざましあそび」「スタートシリーズ」の保育を小林まき子先生（当会研究部講師）、「ファーストシリーズ」の保育を中村真理子先生（四国大学短期大学部講師、当会研究部講師）に研修いただき、楽しい導入から展開、子どもたちに思考をうながす保育について学びました。

英語教育の分科会ではウィットレッド・ブルース先生（ブルースインターフェイス代表）より、英語教育ツール「サイバードリーム」を子どもたちとより楽しくレッスンするためのコツについて学びました。

今年の福岡会場は1日研修で10講座が実施され、非常に内容の濃い、充実した研修となりました。来年も都久志会館にて8月4日に開催予定ですので、ぜひ皆さまのご参加をお待ちしています。



園の教育運営と認定こども園をテーマに 「設置者・園長・後継者研修」

2013年8月5日 ©都久志会館（福岡市天神）

■ 第1講座

「保育で選ばれる園づくり」

～99%クレームのでない幼稚園～

小谷隆真先生（大阪府・千里敬愛幼稚園園長）

園長研修の第1講座は、小谷隆真先生より「保育で選ばれる園づくり」についてお話しいただきました。小谷先生は保育内容の評価について、結果主義に陥ると教員は保護者、園長の評価を気にして、本来は子どものためであるはずの保育をゆがめてしまうと指摘。個々の子どもの「できる・できない」に

焦点をあてるのではなく、全員の子どもが成長していく様子を伝えることで、保護者が自分の子どもだけでなく園全体の子どもたちに対しても愛おしい眼差しを注げる親に変わっていくと述べられました。

引き続き「子ども子育て会議の行方」を議題に、文部科学省初等中等教育局幼児教育課より相原康人専門官をお招きし、認定こども園制度の最新の動向をお話しいただくとともに、受講した園長先生方と率直な意見交換が行われました。

■ 第2講座 ・シンポジウム

認定こども園について（幼児教育の現状）

「子ども子育て会議の行方」

相原康人 文部科学省 幼児教育課専門官

玉木弁立 当会理事長

久里浜幼稚園/神奈川県横須賀市

押野典生 当会理事

せんだい幼稚園/鹿児島県薩摩川内市

片上星太郎 当会監事

認定こども園万代幼稚園（幼保連携）

興水 基 認定こども園めぐみ園（幼保連携）

阿久根めぐみ保育園/鹿児島県阿久根市

田原慎也 認定こども園みちび樹（幼補連携）

なあもの森保育園/鹿児島県薩摩川内市



日々変わっていく保育関連の新法（平成27年度施行予定）に対して、私たち幼保関係者の不安と期待も交錯し揺れ動いています。

日本幼年教育会は、昨年度末の春季研修会（京都開催）、夏期研修会（横浜開催）に文部科学省より講師として幼保一体化プロジェクトチーム専門官相原康人氏をお招きしました。

認定こども園及び関連新法へのアプローチが全国的に展開されている現状の中、相原氏の説明会は全国的にも好評を博していますが、このたびの夏期研修会福岡会場では事前に相原氏と協議して一方通行的なシンポジウムにならないよう、そして気軽に質問ができるよう企画しました。また、シンポジストとしてお願いした3名の認定こども園の園長には受講された先生方の意見や質問を引き出し役に回っていただくことにしました。今回は約30名ほどの参加でしたが、保育園関係が多いのが特徴的でした。

はじめに、参加者を3グループ10名程度に分けて、まず相原氏より現段階の最新情報の説明をしていただきました。

これを受けて、早速グループごとにお一人おひとりの疑問質問をメモしていただきました。もちろん、同内容のものもあり、各グループのシンポジストの先生に手際よく内容をまとめ板書していただきました。この内容をもとに、相原氏より各グループの質問や疑問を関連付けながら説明してもらいました。その内容（一部）は下記のとおりです。

● 給食はしないといけないの？

- ・ こども園は学級を編成し、教育的時間をコアの活動時間とする。
- ・ 児童福祉の観点から給食を出す必要がある。
- ・ 保育園の要素があれば給食を提供できるようにする。
- ・ 3～5歳児は外部搬入の給食で構わないが、0～2歳児は自園調理が原則。

● 調理室のためだけの補助は？

- ・ 今のところなし

● ニーズ調査の調査票について

（対 保護者）

- ・ 預かりを促進するのでは？ 預け得を助長しないか？ といった懸念の声がある。
- ・ 国の叩き台はできあがったが、市町村はあくまでも叩き台を参考に実態把握の基礎資料を作成する。

（対 施設）

- ・ 認定こども園、施設給付の園などへの移行の意向は平成26年度に聞くことになる。
（一部の市町村で、保護者へのニーズ調査に合わせて施設への意向調査も行っているようだが、基本的には平成26年度となっている）

● 定員について

- ・ 「学則上の認可定員」と「運用上の利用定員」とが実態としてもある。
- ・ 特に私立幼稚園は現状であっても、認可定員と実際の園児数とには乖離が見られる園は多数あるのが実態である。

● 定員内の内訳をどうするか

- ・ 新制度においては、3～5歳児において、教育のみの「1号認定」と保育が必要な「2号認定」に分かれ、0～2歳児は保育が必要な「3号認定」がある。
- ・ 各施設ごとに1～3号ごとの定員設定を行うことになる。その際には、認可定員と現状の園児数がかき離れていたりする場合は実際の状況によって設定することになるであろう。また、運用する上で各号の定員設定もある程度柔軟に取り扱えることになりそう。

● 地方版子ども子育て会議

- ・ ニーズ調査等で明らかになる潜在的なものも含めた保育ニーズを盛り込んだ計画を市町村・県で作成することになる。その計画作成、実施、見直し等を、地方版子ども子育て会議が担うことになる。
- ・ 地方版の子ども子育て会議の中で、各施設の定員の確認もしていくことになる。

● 都道府県と市町村の子ども子育て会議の違いは？

- ・ 各市町村の会議の積み上げが都道府県の子ども子育て会議となる。
- ・ 都道府県は、認定こども園・幼稚園・保育園の認可、認定権者として管理監督の責任を負うことも、都道府県の子ども子育て会議に関係してくる。
(政令指定都市・中核市では、幼保連携型認定こども園については、県ではなく市が認定することになる。)

● 確認制度について

- ・ 子ども子育て支援法においては、市町村が各施設の1～3号の利用定員、運営基準などを満たしているかなどの確認を行うこととなっている。

● 新制度は都市部のためだけのものではないか？

- ・ 都市部においての待機児童対策としての側面ももちろんあるが、子ども子育て支援法は、すべての子どもに公平にお金をという趣旨のものである。地方においては、特に過疎地では小規模保育（定員6～19名）が担うものに期待が大きい。
- ・ 幼稚園には規模設定がないが、小規模な幼稚園には手厚く単価の引き上げなども考えられる。

● 1～3号認定と園との関連は？

- ・ 現在の私立幼稚園の園児募集の自由度は確保したい
- ・ 市町村において保育の必要性の認定をしようとしているが、1号認定は3歳以上であれば入園できる

となるので、従来の幼稚園の入園手続きで対応可能である。

- ・ 2号・3号認定は児童福祉法24条より、市町村の責任で認定を行うことになる。これは今の保育所入所の考え方と同じ。そのため2号・3号認定の場合は、入所の希望を書くことはできるが、市町村による利用調整が出てくる。
- ・ 1号認定に関しては利用調整の適応外であるので、保護者の選択重視となる。

● 新制度への移行で幼稚園・保育園はどうなる？

- ・ 私立幼稚園には4つの道がある。①今までと同じ私学助成を受ける幼稚園 ②施設型給付を受ける幼稚園、③幼稚園型認定こども園 ④幼保連携型認定こども園

(私学助成は都道府県によって格差が大きく、不安定である。新制度での財源は消費税財源から恒久的安定的なものである。)

- ・ すでに認定こども園になっている園と保育園は、必ず施設型給付の園になる。

● 私立幼稚園で、未満児を認可外の保育施設で受け入れている園は？

- ・ 0～2歳児は3号認定となり、認定を受ける方がおそらく利用者負担は低くなるだろう
- ・ 3号認定はあくまで「保育が必要である」との認定であるため、専業主婦家庭の子どもの2歳児保育などを考えると、施設に3号認定の定員を入れるかどうかは、それぞれの施設の判断の分かれどころになりそう。

● 設置主体が異なる幼保連携型は？

- ・ 現在の幼保連携型認定こども園は ①学校法人立の幼稚園＋保育園 ②社会福祉法人立の保育園＋幼稚園 ③学校法人立の幼稚園＋社会福祉法人立の保育園ある。新しい幼保連携型認定こども園は

幼保一体の施設として1つの認可になることから③の場合は学校法人もしくは社会福祉法人のどちらかで認可を受けることを選ぶ必要が出てくる。

だまだたくさんの未知数な部分を残しているこの新法は、この先どのように仕上がっていくのか、私たちはしっかりと見定めておく必要があるようです。

● 保育者の必要資格は？

- ・新しい幼保連携型認定こども園は学校教育法上の学校であり、児童福祉法上の児童福祉施設という両側面を併せ持つ施設となる。そこで働く保育者を保育教諭と呼び、幼稚園教諭免許と保育士資格の両方が必要になる。5年の経過措置があり、その間に免許と資格の併有をすることになる。幼稚園教諭のみ、保育士のみの場合は条件を満たせば3年で8単位の科目を履修すれば、持っていない免許資格を取得することができることになる。

● 新制度になると校区制のようになるのでは？

- ・1号認定については選択の自由度は確保されるし、2～3号認定は利用調整の可能性もあるが選択の希望は出せることになる。
- ・施設型給付は個人給付であるため、子どもにお金（公定価格で決まった額）が出されるものを、各施設が法定代理受領というかたちで受け取ることになる。その一部には利用者負担の額も含まれる。

● 幼児教育無償化との関連は？

- ・今のところ多子世帯、低所得世帯を平成26年度以降無償化していくことは実現するが、この部分に関しては、新制度でも受け継がれていくと考えている。
- ・財源と公平性の観点から、幼児教育無償化が拡大していくかは疑問がある。

与えられた時間（100分）では、とても足りなかったのですが、時間ぎりぎりまで丁寧にかつ敏速にお応えされている相原氏のキレの良さに脱帽でした。

しかし、大まかな体制は理解できたとしても、ま